

プロマネが語る
コミュニケーション術

品田 宰

まえがき

皆さんは、プロジェクト、プロジェクトマネージャ、と聞くと、どのようなことを思い浮かべますか？

大規模で大勢の人が関わる建設工事でしょうか？ それとも、その集団を取りまとめる管理者といったところでしょうか。

私がこの「コミュニケーション術」で伝えたいのは、コミュニケーションをどのように取るのかという方法論だけではありません。

私なりのコミュニケーション術をやってきた結果、「仕事の段取りがうまくつけられるようになった」ことを知っていただきたいと思っています。

本当かな？と思われるかもしれませんが、本当なのです。

コミュニケーションがうまくいけば、仕事の段取りも、うまくいくようになるということに気がついていただきたくて、本書を書きました。

コミュニケーションが苦手と思っている方、仕事の進め方に自信が持てない方、たくさんいらっしやると思います。私もかつてはそうでした。

そんな私がコミュニケーションをどうしたらうまくとれるだろうかと考え、やってきたことが皆さんの参考となればと願っています。

プロジェクトとは何か？

プロジェクトとは、規模の大小に関わらず、ある目標を達成するために期間を区切って成し遂げる仕事であるといわれています。

仕事を仕上げるという意味では、あなたの目の前の仕事、身近な仕事すべてがプロジェクトといえるのです。

プロジェクトに携わる仲間が一つのことを成し遂げるには、プロジェクトの目的、情報、問題を共有する必要がある、同じように理解できていなければなりません。相互に理解するには、コミュニケーションが欠かせません。

では、コミュニケーションをとる方法にはどんなものがあるでしょうか。会議を頻繁に開く？ メモをまわす？ 会話の機会をもつ？ いろいろあるかと思いますが、これだけではメンバー全員が相互に理解し、同じ方向に向かうのは、難しいことがよくあります。

なぜなら、そのプロジェクトに関わる仕事仲間が、同じ会社（同じ文化）に属する人だけではないことが多いからです。

では、どのようにコミュニケーションをとればいいのでしょうか。

それは、最初から異なる文化の人の集まりだと思えばいいのです。

つまり、互いを理解し合っていることが前提ではないと思うことです。そう思えば気が楽になります。

ということは、相互に理解し合うためにもコミュニケーションが欠かせないだけでなく、その方法にもいろいろと工夫が必要なことが理解できますね。

ですから、プロジェクトのもう一つの解釈は「異なる文化の人が集まり、一つの目的を成し遂げる仕事」ともいえます。

「異なる文化の人たちの集団」。私が担当してきたプロジェクトがまさにそうでした。はじめてプロジェクトマネージャらしきことを任された仕事では、同じ会社（同じ文化）の人は自分一人だけ、プロジェクトを成功させるという目標を同じとする5社約30名の異なる文化の仲間がプロジェクトチームを構成したのです。

どうやって30名の仲間と付き合っていこうかと、途方に暮れたのを思い

出します。

このプロジェクトを何とか終えたあと、幸か不幸か私は海外赴任、憧れの海外生活となりました。日本からの赴任＝管理職の肩書＝少しはのんびりできると思いますよね。

ところがどっこい、ここでも日本人は私一人。英語、ドイツ語など、数か国語が飛び交うプロジェクトルーム、共通言語は英語です（当たり前ですが日本語は世界の共通言語ではありません）。

ぼやぼやしていたら、仕事も進まない、自分の事も理解してもらえない。仕事を進めるためには、私をプロジェクトマネージャとして認めてもらわないとどうにもならない。

さあ大変。身振り手振り、拙い英語での会話など、私流コミュニケーションの開始でした。

この混沌としたチームでの経験が、私にコミュニケーションの必要性を痛感させてくれました。

私くらいの年代だと「言わずもがな、黙っていてもやることは分かっているはず」というのが仕事上の主流でした。

この経験則が全く通用せず、そんなことは言っていられない状況を経験できたことで、言わなかったら、黙っていたら、仕事は進まないことが分かりました。

何としてもコミュニケーションをとり、仕事としてやってほしいこと、進みたい方向を理解してもらう事が必要なのだと身にしみて理解できました。

「人見知りだから」「コミュニケーションが苦手だから」を理由に、せっかく就いた仕事から目をそらしてしまうのはもったいないことです。

私の考えるコミュニケーションのあり方、捉え方を参考にしてみてください。きっと人との関わり方が楽になり、仕事の段取りもきつとうまくいくようになります。